

次世代の印旛地域を牽引する中核的担い手の育成

～印旛農業経営体育成セミナーを通じた新規就農者の育成～

1 活動のねらいと背景

農業経営体育成セミナーは、地域の新規就農者を対象とした育成カリキュラムです。3年間のカリキュラムで月に1回程度の研修を行い、農業に関する基本的な知識から農業経営者として必要な能力まで身に付けられるよう、段階的な研修を実施しています。

今年度も4月から勧誘を行い、9名の基本研修生を迎えることができました。セミナー研修生が意欲的に継続して参加できるような、魅力的で学習効果の高い研修運営と仲間づくりに取り組みました。

2 普及活動の経過

今年度は基本研修（1年目）9名、専門研修（2年目）12名、総合研修（3年目）14名の計35名のセミナー研修生が参加しました。職員は各コースを2名ずつが担当し、コース担当6名と全体を総括する1名の計7名で運営しました。

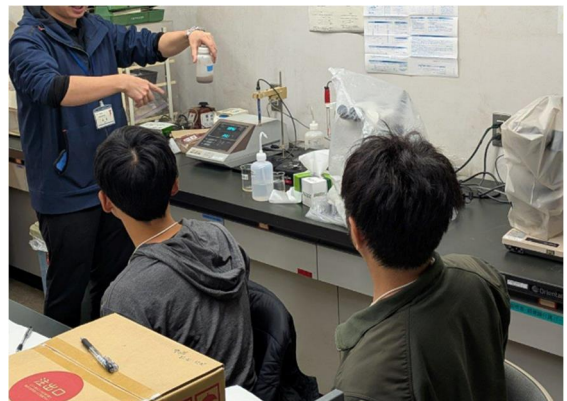
（1）各研修の開催

ア 基本研修では、基本的な農業技術・知識の講義を行うだけでなく、実習やグループワークの場を設けることで、セミナー研修生が交流し、また主体性を持って学ぶことのできる研修を実施しました。

イ 専門研修では、講義中心でなく、セミナー研修生同士の経営の相互訪問や要望に応じた農家視察を行うことで、専門知識・技術の習得ができる研修を実施しました。

ウ 総合研修では、ライフプランの作成実習や事業計画の考え方・制度資金、青色申告に関する講義など、農業経営に必要な知識の習得に重点を置いた研修を実施しました。

エ 全コースのセミナー研修生を対象とした合同研修では、生産及び販売をより戦略的に行える力を養うことを目的に、東京都中央卸売市場大田市場を視察しました。また、先進的技術を持った経営を実践する先輩農業者である指導農業士・農業士との交流会を開催しました。



土壌分析の方法を学ぶセミナー研修生



合同研修で大田市場を視察

（2）新規就農者としての意見発表、プロジェクト活動、営農計画作成の支援

4月に各担当者による個別指導体制を定め、セミナー研修生の取り組みをフォローする体制を整備しました。また、研修ごとに指導を行い、セミナー研修生が課題に

スムーズに取り組めるように努めました。さらに、プロジェクト活動においては、内容の共有と意見交換を相互訪問の中に取り入れることで、セミナー研修生の興味関心を高めることができました。

3 活動による変化と動き

(1) 基本研修

基本的な農業技術・知識を習得するだけでなく、「講義で得た知識を踏まえて自身の経営で栽培技術改善の提案をしていきたい」などの意見もあり、セミナー研修生が経営に参画していく意識づけが進みました。また、実習や各研修でのグループワーク、視察研修を通じて、徐々に研修生同士のコミュニケーションが増え、仲間意識が醸成されました。2月には、就農したきっかけや将来の目標などの農業に対する想いを意見としてまとめ、発表することができました。

(2) 専門研修

相互訪問により自身と異なる経営を視察することで、新たな視点での気づきや学びがありました。また、経営紹介を通じて、セミナー研修生同士で販売先の情報交換を行い、販路拡大につながるような行動変化もみられました。直売所の運営やSNSを活用した販路開拓、雇用導入を行っている優良経営体への視察では、販売や労務管理に関する実践的な知識を学ぶことができました。プロジェクト課題については、自ら立てた活動計画を完遂し、課題解決手法の習得ができました。

(3) 総合研修

事業計画の考え方・制度資金の講義を受けたことで、「今後、事業計画を検討する際に活用できる制度資金を知ることができ、資金の手立ての幅が広がった」といった意見もあり、今後の経営発展に資する知識を深めることができました。また、ライフプランの作成実習では、「農業経営と私生活を結び付けて深く考えたことがなかったので、この機会に検討していきたい」といった意見もあり、営農計画を考えるきっかけとなりました。研修時に定期的な指導を行うことで個別経営者としての意識が高まり、3年間のセミナーの仕上げとして営農計画を作成することができました。

4 今後の課題と活動

コースごとにセミナー研修生の特徴や研修に対する要望が異なるため、習得すべき内容に漏れ落ちがないように注意しながら、状況に応じて柔軟にカリキュラムの内容を修正及び改善していく必要があります。欠席が多いセミナー研修生もいるため、研修に参加しにくい原因の解消やセミナー担当・個別担当、セミナー研修生同士の信頼関係を研修の中でのコミュニケーションや個別巡回などでさらに深め、研修に参加しやすい環境づくりも必要です。これまで以上にセミナー研修生の能力向上につながる取組を検討し、農業経営での財産となる仲間づくりもできる場となるよう今後も取り組んでいきます。

5 担当グループ名

成田グループ、中部グループ、八街・富里グループ、北西グループ